



松 濤 の 風

No. 28 2005. 12. 22

渋谷区立松濤中学校 SHOTO Junior High School TEL (3469) 2451・2452

<http://academic1.plala.or.jp/shoto/>

【教育目標】○みんなを愛する生徒 ○自ら学び考える生徒 ○生き生きと活動する生徒

「大過なく」の幸せ

校長 竹下 賢

平成17年も残すところ、あと僅かとなりました。今年も子供たちを巡る悲しい事件が続発し、心の痛む思いをすると同時に、本校生徒にも災禍が及びかねないという緊張感に満ちた1年でした。そのような中、本校の生徒たちについては、幸いにもみんな元気で1年間を締めくくることができました。これも、保護者の皆様のいろいろな面でのご理解とご協力の賜であると深く感謝しております。

来年は、全国のすべての子どもたちが、安心して生活でき、将来への希望をもって明るく生きていける社会になってほしいと願っています。

**個に
向き合う** さて、私は、今年度の「学校経営方針」の基本的な考え方として、「個に
向き合う」ということを掲げ、学習指導、生活指導をはじめすべての教育活動や指導が、生徒一人一人をよく理解し、それぞれを「生かす」方向で行われることを目指してきました。個々の生徒の声に耳を傾け、個に応じた指導を心がけるよう努めてきたところですが、保護者の皆様によっては、評価が分かれるところかもしれません。ここ数日間に実施している保護者対象のアンケート（学校評価）の結果などを参考にしながら、今後とも個々の生徒に向き合って指導を進めていきたいと思えます。

**みんなの安全は
思いやりから** 過日、ある小学生の母親から学校に電話がありました。その主旨は、ご自分のお子さん（小学1年生）が下校途中に具合が悪くなり、道端でしゃがみ込んでいたところ、本校の生徒が声をかけ、家まで送ってきてくれて、大変有り難かったということでした。私も、路上などで、困っている（ような）人を見かけることがよくありますが、声をかけることができずに通り過ぎることしばしばであり、この生徒の行動力には頭の下がる思いがしました。

現在、私たちの生活では「安全」ということがキーワードになっており、学校でも「自分の身を守る」ということを主眼に指導をしているところです。しかし、成熟した真に安全な社会というのは、他人の安全をも守るという発想、言うなれば、思いやりのある行動ができる構成員によって成り立つのではないかと考えます。「あの人どうしたんだろう」と思ったら、声を掛けてみる。このような行為を、まずは、身近にいる大人が示すことによって、子どもたちも自然に実行できるようになるのだらうと思えます。

年末・年始はご家族で外出することも多いと思えます。他人への気配り、思いやりとはどうということかということについて、具体的な行動を通して子どもに気づかせ学ばせる機会にもしたいものです。

皆様、どうぞよい年をお迎えください。

東京都中学校英語学芸大会に参加して

英語活動部顧問 小松 由貴子 教諭

12月4日(日)に、本校の英語活動部の生徒たちが英語学芸大会に参加しました。近年、渋谷区の中学校は、どの中学校もこの大会に参加していないというのを聞き、「思い切って今年、松濤中から、参加してみようか」とALTのグリスビー先生、そして校長先生と話し、決定したのが今年の4月でした。

今回、この英語活動部の英語劇「クリスマスキャロル」のために、一番力を尽くしてくださったのが、脚本を作り、演劇指導をしてくださった、グリスビー先生でした。

この大会に出場することに決めてから、すぐ私たちは大きい壁にぶつかりました。それは他の行事のために、部活動に出ることができない生徒が長期間続いたということです。やむをえず、土日に練習をすることにしました。それでも、大会までに全員が集まって練習できたことは1度もありませんでした。このことで、グリスビー先生には、本当に歯がゆい思いをさせてしまったと思っています。

この劇が、やっと形になってきたのが、10月です。この頃には、ALTのマークス先生、ヒンキンソン先生も参加し、ダンス指導や音楽指導、演技指導をしてくださいました。そして、小山先生は、劇で使う背景セットを作り、また大会の打ち合わせにも参加して陰で支えてくださいました。また、大会の当日はたくさんの保護者の方、先生方が応援に来てくださいました。入賞こそできませんでしたが、生徒たちも練習の成果を十分発揮することができました。

本校の英語活動部が参加できたのは、生徒はもちろんのこと、ALTの先生方、保護者の皆様、松濤中学校の教職員が全員協力して下さったお陰です。本当にありがとうございました。

毎日新聞 12月6日付朝刊から引用



クールベ「峡谷の川」などの作品に鑑賞する生徒たち

芸術の楽しさ実感

スコットランド国立美術館展

渋谷区のBunkamura(ザ・ミュージアム)で開催中の「スコットランド国立美術館展」に、松濤中学校の生徒たちが、興味を持って鑑賞した。生徒たちは、特にクールベの「峡谷の川」や「峡谷の川」を鑑賞する姿が印象的だった。引率の市村朋子教諭は、「力をこめて生徒たちが芸術鑑賞の楽しさを知り、自ら美術館に足を運ぶようになってほしい」と語った。

同展は25日まで(無休)一週3000円以上の割引あり。問い合わせは、Bunkamura(03-5577-1000)。

渋谷の中学生が鑑賞

渋谷区のBunkamura(ザ・ミュージアム)で開催中の「スコットランド国立美術館展」に、松濤中学校の生徒たちが、興味を持って鑑賞した。



英語劇「クリスマスキャロル」の一場面



12月5日から12日にかけて、美術の授業で、1年生と2年生が学校そばのBunkamura ザ・ミュージアムへ行きました。生徒達は英語によるワークシートに沿って作品鑑賞をし、その様子は毎日新聞にて紹介されました。英語での授業やワークシートを関心深げに眺める来場客もいっしょに、楽しみながら真剣に取り組む生徒の姿は印象的でした。印象や気持ちを他の言語で表すことは容易ではありませんが、各々の言葉で表現できるように、また今後、様々な作品と触れ合う機会を作ってほしいと思います。最後に、鑑賞に先立ち、共に計画・下見をし、英語によるワークシートを作成したMs.Gillespieに御礼申し上げます。

美術科 市村 朋子 教諭